

研究だより

寒河江市立三泉小学校
令和7年12月3日（水）

NO.7

第1学年「引き算」(授業者:岸未侑先生)

◎成果

- ホワイトボードを使いながら、自分の考えを表現したり、友達に説明し合ったりすることで、考え方を広げ、自らの考えを深めることができた。
- 「10といくつ」の数の見方は、前時まで繰り返し行っていたため、理解することができていた。
- 子ども同士の関わり方が良かった。対話でき、何でも話せる雰囲気になっていた。

○課題

- なぜ10をつくるのか、10から引くことのよさをおさえるとよかったです。子どもに任せすぎた面もあったため、問い合わせがあるとよい。
- 前時との違いをはっきりさせた方が良い。前時の計算が使える見通しをもつことで、本時につながる。
- 子どもから出た減法は、次につながるため価値づけた方がよい。
- 確実に身に付けるためには、机で発表の後に全体で確認した方が良い。

第6学年「比例の関係をくわしく調べよう」(授業者:和泉景子先生)

◎成果

- 自分に合う学習方法や工夫を選択

「誰と学ぶのか」「どのように学ぶのか」などを選択することで、自分にあった方法でよく考えながら取り組むことができた。一人だと分からない児童も、友達と一緒にやって解決したり、途中からは一人でやったり、様々な方法を試して変えながら取り組めたので良かった。

- 学びのプランを使って、見通しをもって学習すること

学習の流れを説明するだけではなく、実際に教科書をじっくり見て、どんな問題があるのか、大切なものは何か（表やグラフなど）を、確かめることができた。また、「どんな力がつくのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」を児童と共有することで、具体的なイメージができて、次時からの意欲につながると感じた。

○課題

- タブレットの活用について

自分の考えを紙に書けたら写真をとり、タブレットで他者参照できるように仕組んだが、説明を書く段階でけっこう時間がかかり、見ながらの交流は難しかった。そもそも考えを書くツールとして、タブレットを使用し、かいているところをリアルタイムで見ながら使えるようにしたい。

学びをつなげよう！

今回の事後研の三浦登志一教授のご指導の中で、「対話」の捉えについてお話をありました。1つ目は「『対話』に関する考え方の整理」について、2つ目は「学校研究の視点の再構築」についてです。以下にまとめました。

(1) 「対話」に関する考え方の整理

三浦登志一教授は、「対話」に関する考え方を以下のように述べられました。

○研究の主軸：「子どもと子どもの対話」を中心に置く

- 子どもと子どもの1対1の関係を基本にすること
- 子どもが他の子の声に応じていく【返答の連鎖】があること
- 「聞き合う」関係であること
 - ・気付きや疑問がスタート
 - ・気付いていないことを発見する
 - ・相手の言葉を受けて生まれた気付きや疑問を話すこと

本校では、「対話」について以下のように捉えています。

仲間との対話	<ul style="list-style-type: none">□子どもが他の子どもの声に応じていくこと【返答の連鎖】□仲間の言葉を聞いて気付いていないことを知ること□聞き合うこと：気付きや疑問を伝え合うこと
自分との対話	<ul style="list-style-type: none">□着目している根拠や理由は正しいか考えること□課題の解決をどのように表現するか考えること□仲間の考えと自分の考えをすりあわせること□自分自身の学びを振り返ること
教材との対話	<ul style="list-style-type: none">□使える既習事項を思い出すこと□どこに着目するとよいのかを探すこと□具体物や図などを用いて解決の方向を探ること

「仲間」「自分」「教材」の3つの対話のうち、「仲間」との対話が、対話の〈核〉になるとのことでした。もちろん「自分」「教材」との対話を通して考えを広げ深めることも大切です。しかし、「仲間」との対話を通してどのように考えを広げ深めさせられるか、授業中子どもたちは「仲間」との対話を通して考えを広げ深められているかについて、授業者が考え見取っていくことが大切になってくるようです。

(2) 学校研究の視点の再構築

本校の学校研究における研究の視点は、以下の3つです。

- 〈視点1〉 対話を通し、自らの考えを広げ深めるための手立て
- 〈視点2〉 自分に合う学習方法や工夫を選択・決定して学びを深めるための手立て
- 〈視点3〉 目標や見通しを考えて粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげるための手立て

三浦登志一教授は、以下の表のように、それぞれの視点において「対話」の要素が考えられることを述べられました。

今回の研究授業で見られた場面		
視点1	仲間	□ 聴き合うこと：気付きや疑問を伝え合うこと
	自分	□ 仲間の考え方と自分の考え方をすりあわせること／伝えること
	教材	□ 着目している根拠や理由は正しいか考えること
視点2	仲間	□ 課題を解決するための相手や形態を選ぶこと
	自分	□これまでの方法や相手・形態の良さを思い出すこと
	教材	□ 課題を解決するための材料・方法を選ぶこと
視点3	仲間	□ 仲間の良さについて考えたり伝えたりすること
	自分	□ 自分自身の学びを振り返ること
	教材	□ 具体物や図などを用いて解決の方向を探すこと

(右の「今回の研究授業で見られた場面」の部分は筆者加筆)

上の表を踏まえて、今回の研究授業を振り返ると、子どもたちの様々な「対話」の場面が見られました。

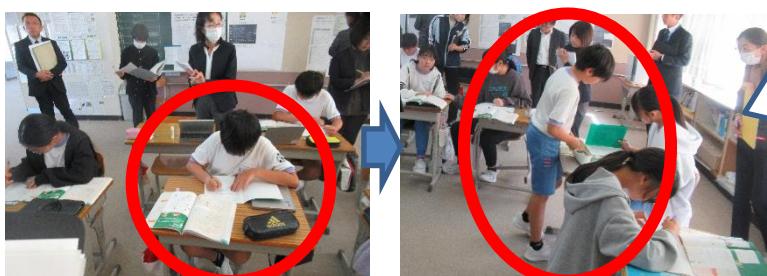
①〈視点1〉 仲間 聴き合うこと：気付きや疑問を伝え合うこと



第1学年

「14-8」の計算の仕方をホワイトボードに書き、友達に伝えています。完璧な説明でなく、つまずきながらも自分の考えを伝え、相手の考えを聞き合っています。

②〈視点1〉 自分 仲間の考え方と自分の考え方をすりあわせること／伝えること



第6学年

はじめは、ノートに自分の考え方を自力で書いています。その後、友達のもとに行き、仲間の考え方と自分の考え方をすり合わせています。仲間と対話をしていると同時に、自分と対話をしているともいえます。

③〈視点2〉 仲間 課題を解決するための相手や形態を選ぶこと



第6学年

課題を解決するために、左の写真の○の児童のように一人で考える児童もいれば、○の児童のように仲間と考える児童もいます。また、解決するための相手も児童が自分で選んでいます。

④〈視点2〉自分 これまでの方法や相手・形態の良さを思い出すこと



第6学年

本時の課題を解決しようと、前回の自分のノートを振り返り、これまでの解決方法を活かせないか考えています。

⑤〈視点2〉教材 課題を解決するための材料・方法を選ぶこと



第6学年

紙の「厚さ」と「重さ」のどちらを使って300枚の紙をはかりとるか考えていました。右の写真の○の児童は「厚さ」を使い、○の児童は「重さ」を使って考えています。

⑥〈視点3〉自分 自分自身の学びを振り返ること



第1学年

この時間の自分の学習の振り返りをしています。◎○△で振り返り、なぜそうなったのかを発表しました。

今回の三浦登志一教授による「対話」の捉えに関するお話を受けて、今後も「対話」についてみなさんと考えていければと思います。